

感染症研究の推進に関する作業部会について

令和8年2月

研究振興局研究振興戦略官付

感染症部会の目的

近年、様々な地域で新たな感染症が出現し、熱帯地域を中心として様々な新興・再興感染症が流行してきた。文部科学省では、これまでこうした感染症への対策の根幹を支える研究を推進してきている。令和8年度末には、現在行っている新興・再興感染症基盤創生事業の事業期間を迎えることもあり、文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会ライフサイエンス委員会の下、我が国における今後の感染症分野の研究開発・人材育成等の推進に係る方策を検討するため本作業部会を開催する。

作業部会の進め方

スケジュール

- 第1回（1月28日）
 - ・作業部会の主旨・進め方について
 - ・有識者ヒアリング（これまでの海外研究拠点の取組及び成果）
- 第2回（2月17日）
 - ・有識者ヒアリング（感染症研究人材育成について・モニタリング体制の強化に関する取組）
- 第3回（3月13日）
 - ・有識者ヒアリング（BSL4施設を活用した研究の取組・コロナ禍の取組・他事業連携）
- 第4回（3月17日）
 - ・有識者ヒアリング（病原体共有の取組について）
 - ・論点中間報告
- 第5回（4月7日）
 - ・今後の感染症研究に向けた提言案

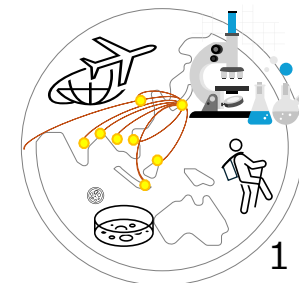
委員一覧

- | | |
|--------|------------------------------------------------|
| 大曲 貴夫 | 国立健康危機管理研究機構
国立国際医療センター 副院長 |
| 川上 英良 | 千葉大学 国際高等研究基幹 教授 |
| 小柳 義夫 | 京都大学国際高等教育院 特定教授 |
| 鹿野 真弓 | 東京理科大学薬学部 嘱託教授 |
| 鈴木 基 | 国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所感染症疫学センター長 |
| 舘田 一博 | 東邦大学 医学部 教授 |
| 多屋 馨子 | 神奈川県衛生研究所 所長 |
| 山野 佳則 | 日本製薬工業協会 国際委員会・グローバルヘルス部会・感染症グループ・創薬促進検討SGリーダー |
| 渡辺 登喜子 | 大阪大学 微生物病研究所ウイルス分野 教授 |

（敬称略・五十音順）

ヒアリング事項案

- ・ 新興・再興感染症研究基盤創生事業の取組と成果について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第1回）
- ・ 感染症基礎研究人材の育成について【舘田一博（東邦大学 医学部 教授、感染症学会 理事）】（第2回）
- ・ モニタリング体制の強化に関する取組について【齋藤智也（JIHS 感染症危機管理研究センター センター長）】（第2回）
- ・ BSL4施設を活用した研究の取組について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第3回）
- ・ 新興・再興感染症研究基盤創生事業のコロナ禍の取組について【杉浦互（新興・再興感染症研究基盤創生事業PS）】（第3回）
- ・ 他事業連携の促進について【小柳義夫（京都大学国際高等教育院 特定教授、AMED 感染症プロジェクトPD）】（第3回）
- ・ 病原体共有に関する取組について【鈴木忠樹（JIHS 国立感染症研究所 感染病理部長）】（第4回）



○ 文部科学省で行う感染症研究支援について

- 科学技術の振興として基礎研究成果の創出、実用化に向けた他事業との連携について、どのような目標設定を行うべきか。

○ 海外研究拠点の役割と対象地域について

- グローバルに活躍できる人材を育成し、我が国のプレゼンスを高めるために必要な取組みは何か。
- 長期間にわたって国の支援を行ってきているが、どの程度の期間国による支援が必要と考えるか。
- 現在支援している地域以外について海外研究拠点を置く必要があるか。

○ 感染症研究人材の育成について

- 世界で様々な感染症が発生・流行する中で、我が国においてもこれらの感染症に対応するための研究人材を育成するべきではないか。また、その際にどの分野の研究人材が足りていないと考えられるか。
- 現在の研究課題数をもってして、我が国としての支援は充足しているか。

○ 感染症法に基づく一種病原体等の研究について

- 一種病原体等を研究することができる人材育成・施設の稼働について、アカデミアにおいてどのように活用・強化を行っていくべきか。

○ モニタリング体制の強化について

- 感染症有事が発生した際に迅速に対応するためにも、我が国に存在しない病原体の研究を海外研究拠点を活用して行うことについてどのように考えるか。
- 世界の感染症流行動向にアクセスするためにも、海外研究拠点のネットワークを活用する必要があるのではないかと。